



おはなしの

マッチ箱



私達は、おはなしのろうそくに
火をともし マッチです。

この箱が、さまざまなお話を
マッチで いっぱいになるように。
心をこめて送ります。

2月のストーリーテリング勉強会

2014年 2月12日 (水) 午前9:30~12:00

主催：高知県立図書館 参加者：12人

場所：高知県立図書館 児童図書研究室 (子ども読書室奥)

次回の勉強会は

3月12日 (水)

午前9:30~12:00

場所：当館児童図書研究室

(子ども読書室奥)

1. ルンペルシュティルツヘン

12分

『おはなしのろうそく 12』(東京子ども図書館/編・発行) より

【語り手から】

初めてストーリーテリングに挑戦させていただきました。何度も詰まってしまったのですが、みなさんからのアドバイスが参考になり、励みになりました。

もっと練習して、次回話れるようにがんばります。

2. エパミナダス

8分

『エパミナダス (愛蔵版おはなしのろうそく 1)』(東京子ども図書館/編・発行) より

【語り手から】

コミカルなお話なので、その軽快さを表現するのが難しいと感じました。アドバイスをもとに、さらに愉快なお話にしていきたいです。

3. 味噌買橋

5分

『日本昔話百選』(稲田 浩二/編著 稲田 和子/編著 三省堂/発行) より

【語り手から】

大人の前で語る緊張感と共に、前の人のお話(語り)からとても強烈的な雰囲気を受けて、自分が語りの態勢になるのに時間がかかりすぎました。この切り換えも勉強しなければと思いました。

自分の話はいろいろ端で語りを聞く気分の話だと思ってやっていました。

4. 鳥のみじい

5分

『子どもに語る日本の昔話2』(稲田 和子/著 筒井 悦子/著 こくま社/発行) より

【語り手から】

鳥の鳴き方はまだまだ工夫が必要だと感じました。落ち着いてしっかり話れるよう、練習します。

5. 王子さまの耳は口/\の耳

8分

『世界のむかしばなし』より

【語り手から】

かなり久しぶりの参加をさせて頂きました。たくさんのお話を聞いて批評を伺って濃い勉強時間でした。毎回参加は難しいですが、なるべくこられる時は来させて頂きたいと思いました。

6. 雪女

7~10分

『おはなし・365日』より

【語り手から】

今の季節にぴったりだと思い選びました。皆さんからアドバイスをいただいた通り、確かに、このお話は情感を込めて語り過ぎると小さい子にとっては「恐さ」しか残らない(伝わらない)かもしれないと思いました。子ども達には、もう少し淡々と語ってみようかな、と思いました。

7. ウサギどんキツネどん

13分

『ウサギどんキツネどん (岩波少年文庫)』(ジョーエル・チャンドラー・ハリス/〔著〕 八波 直則/訳 岩波書店/発行) より

【語り手から】

いつも攻防をくり返しているウサギどんとキツネどんのなりゆきやかに——を楽しむお話。ちょっと長めのストーリーものなどの後に、くつろいでおもしろく聞ける話として選んでみました。特に男の子がニヤニヤしながら聞いてくれます。

8. マメ子と魔物

8分

『子どもに聞かせる世界の民話』(矢崎 源九郎/編 実業之日本社/発行) より

【語り手から】

話すつもりでなかったのですが、あわててしまった。楽しい話なので自分のものにしたい。

今回は全体的に愉快なお話が多く、くすくすと笑い声も時々聞こえていました。当日は寒い日でしたが、寒さが吹き飛ばすようでした。